

# 今年度の研究について

研究主任 大谷 美奈子

## 研究主題 「自らが主体者となって生きる児童の育成」

本校は、平成29・30年度の2年間、東京都教育委員会から人権尊重教育推進校の指定を受けました。人権尊重教育推進校として、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神を培い、どの命も等しく大切に、差別や偏見、いじめを許さない良好な人間関係を築ける自立した児童の育成を目標とします。同時に、「生きる力」の確実な育成に向けて、児童の主体的な学びを通して「知識及び技能の習得」とともに、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」を育むことを目指しています。

そこで、昨年度に引き続き、「自らが主体者となって生きる児童の育成」という研究主題のもとに、児童が主体的に学び、互いに考えを伝え合うことでより深く考える授業づくりに取り組んでいます。

以下は、この6月に行った5年生の道徳の授業の様子です。

**【道徳・5年生】 主題名「真っ直ぐな心」 C [公正、公平、社会主義]**  
**教材名「転校生がやってきた」 (出典：『新しい道徳5』 東京書籍)**

### <内 容>

転校生の勇馬が、学級で仲間はずれにされている「ぼく」を支え、励ます。その勇馬の態度や言動から、それまで黙っていた人たちが、学級をよくしていくため、正義の実現に向けて動き出していく、という教材です。この教材を通して、子供たちは「正義」について考え、いじめや人権に関わる諸課題について深く学んでいきます。「誰に対しても公正、公平に接し、正義の実現のために大切なこととは何だろうか。」の学習テーマに沿って、周囲の雰囲気や意見に流されてしまう人間の弱さ、それを乗り越えていくための「真っ直ぐな心」また、正しい判断のもとに行動することの大切さについて気付かせながら「公正、公平、社会主義」に対する自己の考えを深めていきます。

### <指導の工夫>

- 道徳教育の視点
  - ・課題を自分事として捉えるための問題解決的な学習展開の工夫
  - ・他者との関わりを通して「学び合い」を促進させる活動の工夫
  - ・自己の生き方・在り方について見つけ、表現する活動の工夫
- 人権教育の視点
  - ・誰にでも公正、公平にしようとする意欲や態度の醸成

### <授業の様子>

小グループで意見交流する場面では、「思考ツール（付箋を活用してグループで出た考えを整理・再構成してまとめるためのツール）」を活用し、対話を通して多様な感じ方や考え方に触れながら、学び合う姿がありました。また、グループでの交流をもとに、全体の中で自分の考えを表現する活動では、互いの意見を発表し合うことで、学びを広げ、多面的に考えて自分なりの価値観をつくりあげていきました。

### <児童の振り返り>

学習テーマ「正義の実現のために、大切なこととは何だと思いますか。」

- ・人を助けるときのやさしさとみんなに「いじめをやめよう。」と言う勇氣。
- ・自分から進んで正しい行いをして、他の人にも正しい行いをしてほしいとはっきりと言うなど、平和のためにやること。
- ・勇氣をもって自分から解決するために行動すること。また、普段から正しい行いを継続すること。
- ・「自分ではできない」と思うけれど、「自分以外にやる人はいない」と思うこと。



<思考ツールを使って互いの考えを共有する>



<意見交流の中から学びを広げ深める>